



「終の棲家」にしたい家  
建築家「前川國男」自邸再訪

出張などで出掛けた折りに時間があれば、仕事柄出来るだけ建物を見て回るようにしています。今回ご紹介する建築家「前川國男」自邸は、東京の「江戸東京たても園」の一角に移築展示されています。平成22年に一度行き、昭和17年建築とは思えないシンプルなデザインと開放的な空間に感動し、この”住まいる通信”でもご紹介させていただきました。最近になって、住宅の計画をすると、どうしてもこの”前川邸”が現れ、頭から離れないため、もう一度この目でゆっくりと見てみようとして3月の出張の際に時間を取って再び行って参りました。

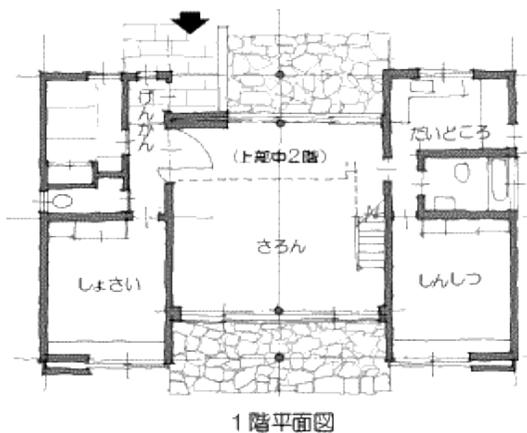
詳細は一度ご紹介しているので、割愛しますが、真ん中のサロン(リビング)は南面に大きな窓を取り空間は天井までの吹き抜けとなった、とても明るくて広い空間となっていて、改めて「こんな部屋でゆったりと過ごしてみたい！」と暫くの間この部屋に佇んでしまいました。

こんな建物を「これからの終の棲家にしたい」と思われる方が多く見学に来られているようで、「図面が欲しい」との問い合わせも多いそうです。

住宅を計画する際に、どうしても中に住まう人間の方から住まいを”器”として考えがちになりますが、その地の”風”や”日照”を元に、構造も平面計画もシンプルな住まいが、人間にやさしい住まいなんだと考えさせられます。

私も”終の棲家”にすべく、皆さんに見てもらえるモデルハウスでも建てれたらいいなあ～なんて夢見ています。(啓)

南面外観



1階平面図



サロンの南面

\*\*\* イベント情報 \*\*\*

廿日市店リフォームフェア

日程:6月12日(月)~17日(土) 会場:廿日市店

今回は、期間中網戸の張替(500円・お一人2枚まで)

恒例の「本格手打ちそば」・フルーツ詰め放題(17日のみ)だけでなく

併せて、網戸の張替教室(15日)・外壁塗装セミナー(17日)も行います。

皆様のお越しをお待ちしております。詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

お待ち  
しています!



宮本大竹店店長



河野



住みいる通信

H29.6

新しい  
ロゴで  
す!



変更前



後面

みなさんこんにちは!5月を迎え新緑がまぶしい、一年でも一番気持ちの良い季節となりましたね!皆様におかれましては、お変わりございませんでしょうか?

上の写真は太田店西村店長が乗っている車です。昨年、太田店のリニューアルに併せて、会社のロゴも一新しましたが、車の表示は買替のタイミングがなかなか合わず、やり替えが随分と伸びておりました。さすがに年度も変わるので、私もこのままではマズイと社用車の表示を一斉に変えました。いかがでしょうか?これまでのロゴは平成3年の台風19号で搭屋が破損し改修した時からですから、24年間も搭屋はもちろん、車・名刺・封筒などで慣れ親しんでいたもので、新しいロゴに変えるのは少々寂しい気持ちも湧いてきます。ですが、時代と共に業種・業態も変化してきましたので、この新しいロゴを広く親しんでいただけるよう、しっかりと露出して行きたいと思っております。

さて、毎年3月には、商工センターにある中小企業大学校でトップセミナーと言う経営者向けのセミナーが行われます。丁度、新しい年度を迎える前ですので、参考になればと出来るだけ参加しており、今年は「おもてなしい経営」と言うタイトルで、活躍されている企業の事例を勉強させていただきました。事例を紹介された講師の方が「良い会社かどうかは、その会社に入っただけで大体わかる」と言われ、ん?どうして?と聞いていると「良い会社は、まず敷地から綺麗に掃除されています。そして事務所に入ると、社員の人がみんな笑顔で気持ち良く自然な挨拶をしてくれます。つまり、会社の雰囲気がとても良い!良い会社は、雰囲気がとても良いんです!」との事。つまり、社内のコミュニケーションが良く、社員が自発的に生き生きと働いている会社と言う事なのでしょう。さてさて、我が社は皆さんから見てどんな風に見えるのでしょうか?「ゲインハウスって良い会社だね!」と言ってもらえる会社になるために、今期はしっかりとコミュニケーションを取るために時間を掛けたいと思っております。って、私にできるコミュニケーションを取る事とは、皆で”飲み”に”ケーション”ですかね。本年度もみなさん変わらぬご愛顧の程よろしくお願い申し上げます。(啓)



## ”宅地建物取引業免許” 申請書提出しました。



住まいに関する仕事をしているとその住まわられている建物だけでなく、古くなったご実家の家をどうしたら良いかなどのご相談を受けることもあり、5年前に私と西村君が宅地建物取引主任者の資格を取得して、いずれ宅建業に取り組むことができるようにと準備をしておりました。

国も、既存住宅を生かすための施策や、空き家対策などに取り組んでいます。当地域においても旧市街地などは空き家が徐々に増え、あちこちに空き地や駐車場となっているのを目にすることが多くなり、我々の持っている技術で、住まい手のなくなった住宅を安全で快適な住まいへと再生し、新しい住まい手によって生かすことができるのなら、地域の建築に携わる者として大いに意義のある事と思ひ、宅建業に取り組むこととしました。

そこで、3月17日広島県に宅地建物取引業免許申請書を提出した次第です。免許申請が下りるまではもうしばらくかかるとは思いますが、地域の役に立つべく、しっかりと皆様方の宅地建物のご相談に対応できるようにしたいと思います。(啓)

## 木の家を科学する⑤

今回のテーマは

### 「腐りにくい木の秘密」

#### 木材の耐久性

耐久性の区分	樹種
I 極大	イベ、セランバツ、チークなど
II 大	ヒノキ、ケヤキ、クリ、ヒバなど
III 中	スギ、カラマツ、キリなど
IV 小	メープル、カバザクラなど
V 極小	スプルース、モミなど

木材は有機物であり、腐朽菌を介して分解され、土へと戻って行きます。腐りにくい木というのは、この木に含まれる物質がどれだけ腐朽菌に強いと言う事で決まります。左の表が木材の耐久性のです。

一般的に匂いのあるヒノキ、スギ、ヒバなどは匂いのもとであるフェノール性の心材成分のおかげで腐りにくい性質を持っています。また、腐朽菌が活発な熱帯地方の木材は、腐朽菌に対抗するため心材に強力な耐腐朽菌物質を持っていることが多く、たとえばチークなどに含んでいる独特の油分などです。



杭打ちの様子

木材を腐らせる腐朽菌は他の生物と同様に繁殖するには適度な水分を必要としますが、逆に水分が多すぎても繁殖できません。貯木場で水に浸かっている木が腐らなかつたり、数百年の間、地中に埋まっていた木材が腐っていなかつたりするのも、酸素の供給が遮断されているためです。

これを利用したのが、イタリアの水の都ヴェネチア。もともと海の浅瀬であった湿地帯に膨大な数のカラマツの杭を打ち込み、その上に石の板を敷いて人工的につくられた町です。"水の中には空気が無いので腐らない"1000年の歴史を持つヴェネチアには木材を上手く利用した先人たちの知恵が隠れています。右の写真のように、昨年新築現場で行った地盤改良工事でも、これまでは鋼管杭で行っていましたが、土壌汚染を起ささない環境に配慮した杭として、杉などの木材を使った工法で地盤改良を行いました。

## ”大規模改修”の現場から 築50年の2階建て住宅を平屋に”減築”

今回の施工事例は、住宅を丸ごと改修した”大規模改修”の事例です。ご高齢のお一人住まいの2階建て住宅で、2階部分を全く使われていないことから、耐震性を上げるためにも2階部分を撤去した、いわゆる”減築”をした事例です。耐震性を上げるためにベタ基礎に補強、断熱性を上げるための高性能断熱改修を行っています。(啓)

#### ・建物概要

構造：木造軸組み工法

建築年：1965年

延べ床面積：

施工前 86.94m<sup>2</sup> (26.3坪)

施工後 56.31m<sup>2</sup> (17.1坪)

耐震診断

施工前 0.42<1.0(倒壊する危険がある)

施工後 1.96>1.5 (倒壊しない)

断熱改修

開口部 複層ガラス+アルミ樹脂複合構造

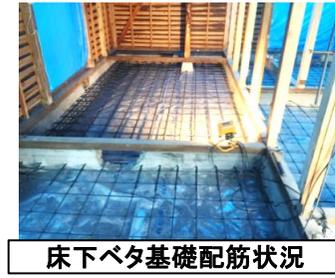
床 カネライト40mm

壁 高性能グラスウール105mm

天井 高性能グラスウール105mm×2



着工前外観



床下ベタ基礎配筋状況



玄関入口  
手すりを付けて入り易く



断熱施工状況



LDK完成



完成平面図

約50年前に建てられたこの住宅は、基礎は鉄筋の入っていない無筋コンクリートでしかも床下は30cmと低く、床下からの湿気困っておられました。また、壁面・天井面等にも断熱材は全く入っておらず、冬寒く・夏暑い住まいでした。

今回の改修のポイントは、

- ①耐震性を確保し床下からの湿気を遮断する
  - ②断熱性の高い快適な住まいにする
  - ③動線を短くして高齢者が使い易い住まいに
- 以上の3点に重点を置いて計画しました。写真のように、防湿シートの上にベタ基礎を施工し、筋交や金物補強を行うことで高い耐震性を確保できました。また、床・壁・天井に高性能断熱材を施工したことで、シンプルな間取りにしたことで、間仕切りの戸を開けたままにしておけば、1台のエアコンで十分な暖冷房も可能となり、冬の入浴時やトイレなどと温度差の少ない、快適で安全な住まいとなりました。

完了後の確認にお邪魔してお話を伺ったところ「冬が本当に暖かい。こんな事なら早うすりゃあ良かった！こりゃあ、長生きせにやいけん！」と話していただきました。住宅の性能を上げる”耐震”は地震が来ないと実感することはできませんが、”断熱改修”は施工後すぐに体感してもらえ、お客様の笑顔を拝見できるいい仕事です！(啓)





